

全体評価

1 総評

委員評価	業務実績評価書（案）
<p>○適切な授業運営及び成績評価の実施、学生の学修成果の可視化した成績チャートの学生本人への通知及び面談時での活用は、本学が目指す「経営経済の専門性をもった教養人の育成」に十二分に貢献しているものと判断できる。</p> <p>○高等教育機関として「教育に責任をもつ」という理念のもと、学生を丁寧に育てている本学の多様な教育活動に敬意を表したい。また、大学の研究活動の成果を社会に還元する種々の取組は高く評価できるものである。</p> <p>○個人的に特に評価したい項目は No. 3（成績チャートを成績通知に同封、学修アドバイザー面談、成績不振者面談等で当該成績チャートを活用した）、No. 10（経済学科のフィールドスタディや地域みらい学科を中心とした各学科等の演習科目において、地域・企業を教育現場とする学修機会の充実を図った。）、No. 46（1、2年次生に向けてキャリアセンターの概要説明や利用方法等について周知を行った。）、No. 68（公立はこだて未来大学の主催により二大学連携特別公開授業を実施した）、No. 71（起業・創業を目指す方の作業の場を提供するスタートアップラボ事業の実施を継続した。学生の起業・起業意識及び青森市ビジネスアイデアコンテストへの参加意識の向上を図るため、学生向けの「創業・起業セミナー」を開催した。）他であり、いずれも当大学の魅力、実力を高め、その結果地域にもより大きく貢献していけるものであると考えられる。こうした取り組みを引き続き強化していくことを期待している。</p> <p>○キャリア支援・就職サポートについて、前年度に設置したミーティングボックスの効果的な活用に取り組むなどキャリアセンターの充実が図られており、特に県内就職に向けて様々に取り組み、高い就職率の成果をあげており評価できる。</p> <p>○学士課程の学生募集について、事業の継続実施とともに新たな学生募集方策を実施し、少子化が進む中においても高い志願者を確保していることは評価できる。</p> <p>○地域貢献の観点を重視し、教員の研究成果の地域還元としての公開講座数と受講者数で数値的に高い実績をあげており評価できる。</p> <p>○特に大学の地位を高めたと認められる研究成果を顕彰する計画及び科学研究費補助金等の申請についての取り組みは、高く評価できる。</p> <p>○大学の研究活動の成果を社会に還元する種々の取組は高く評価できるものである。</p> <p>○計画項目が非常に多岐にわたる中で、いずれの項目においても着実に取り組まれており十分な実績をあげている。特に、その中でも重要度が高いと考えられる「教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置（教育・研究）」においては、顕著な実績をあげている項目も複数あり、全体的に見てもしっかりと計画を遂行していると感じる。</p> <p>○適切な授業運営及び成績評価の実施、学生の学修成果の可視化した成績チャートの学生本人への通知及び面談時での活用は、本学が目指す「経営経済の専門性をもった教養人の育成」に十二分に貢献しているものと判断できる。（再掲）</p> <p>○個人的に特に評価したい項目は No. 3（成績チャートを成績通知に同封、学修アドバイザー面談、成績不振者面談等で当該成績チャートを活用した）、No. 10（経済学科のフィールドスタディや地域みらい学科を中心とした各学科等の演習科目において、地域・企業を教育現場とする学修機会の充実を図った。）、No. 46（1、2年次生に向けてキャリアセンターの概要説明や利用方法等について周知を行った。）、No. 68（公立はこだて未来大学の主催により二大学連携特別公開授業を実施した）、No. 71（起業・創業を目指す方の作業の場を提供するスタートアップラボ事業の実施を継続した。学生の起業・起業意識及び青森市ビジネスアイデアコンテストへの参加意識の向上を図るため、学生向けの「創業・起業セミナー」を開催した。）</p>	<p>公立大学法人青森公立大学は、教育・研究の一層の推進と活性化を図ることにより、市の発展のために必要とされる有為な人材の輩出と、大学が持つ知的財産を市民に還元し、経営経済をはじめとする各分野において、市が掲げる施策の推進に貢献し、市民の生活及び文化の向上に寄与していくことを使命としている。</p> <p style="text-align: right;">※第3期中期目標 前文</p> <p>第3期中期目標期間（令和3年度から令和8年度まで）の4年目となる令和6年度は、高等教育機関として「教育に責任をもつ」という理念のもと、適切な授業運営、成績評価の実施、成績チャートの学生本人への通知・面談時での活用、地域・企業を教育現場とする学修機会の充実等に取り組み、学生を丁寧に育てている多様な教育活動として高く評価できる。</p> <p>また、キャリア支援・就職サポートについては、低年次生向けのキャリアセンターの概要説明や利用方法等の周知のほか、前年度に設置したミーティングボックスの効果的な活用に取り組むなど、充実が図られており、特に県内就職に向けての様々な取組により、高い就職率の成果につなげたことは、評価できる。</p> <p>学士課程の学生募集については、事業の継続実施とともに新たな学生募集方策を実施し、少子化が進む中においても高い志願者を確保していることは評価できる。</p> <p>大学の研究成果の還元については、公開講座数と受講者数で数値的に高い実績をあげているほか、大学の地位を高めたと認められる研究成果を顕彰する計画及び科学研究費補助金等の申請について取り組むなど高く評価できる。</p> <p>上記のように、「教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置（教育・研究）」において顕著な実績をあげていることは、大学が目指す「経営経済の専門性をもった教養人の育成」に十分に貢献しているものと判断できる。</p> <p>地域貢献については、二大学連携特別公開授業や、スタートアップラボ事業の実施、学生向けの「創業・起業セミナー」の開催等、研究活動と一体的に取り組むつつ、自治体や関係団体との連携も行うなど、地域の大学として、期待された役割を果たしている。</p>

委員意見を踏まえた令和6年度業務実績評価（案）

<p>他であり、いずれも当大学の魅力、実力を高め、その結果地域にもより大きく貢献していけるものと考えられる。こうした取り組みを引き続き強化していくことを期待している。（再掲）</p> <p>○<u>地域貢献を重視した研究活動と一体的に取り組み、自治体や関係団体と連携して行っており、地域の大学として、所用の役割を果たしている。</u></p> <p>○<u>業務運営に関しては、戦略会議の開催、市長と法人役員との意見交換などの運営体制の改善のための手段が確立され実行されている。</u></p> <p>○<u>経営・財務について、物価高騰や人件費が増加等により資金の減少局面が続いているものの、厳しい環境下でのやり繰りに努めていると評価できる。</u></p> <p>○<u>計画項目が非常に多岐にわたる中で、いずれの項目においても着実に取り組まれており十分な実績をあげている。</u></p> <p>○<u>すべての項目において、順調に進捗しており、中期計画の達成に向けて概ね計画どおりに実施していると評価できる。</u></p> <p>○<u>全体的に見て令和6年度業務実績としては「4・順調な進捗状況にある」と評価する。</u></p> <p>○<u>中期計画の進捗は順調であることから、全体としても順調であると評価する。11件のA評価はS評価となりうると期待する。</u></p> <p>○<u>今後、更なる研究活動、教育活動を推進し、地域における高等教育機関の核としての役割を期待したい。</u></p>	<p>業務運営については、戦略会議の開催、市長と法人役員との意見交換等の運営体制の改善のための手段が確立・実行されており、経営・財務についても、物価高騰や人件費の増加等により資金の減少局面が続いているものの、厳しい環境下でのやり繰りに努めていると評価できる。</p> <p>計画項目が非常に多岐にわたる中で、いずれの項目においても着実に取り組み、十分な実績をあげており、令和6年度業務実績としては、中期計画の達成に向けて順調な進捗にあると評価できる。自己評価でA評価とした11件については、今後、S評価となりうると考えられ、更なる研究活動、教育活動を推進し、地域における高等教育機関の核としての役割を期待する。</p>
---	---

委員意見を踏まえた令和6年度業務実績評価（案）

2 業務の実施状況 ※事務局作成

業務実績評価書（案）
<p>大学の教育研究等の質の向上（教育）に関して、学修成果を可視化した成績チャートの学生本人への通知や学生面談を実施し、学生の育成に取り組んでいるほか、授業評価アンケートを実施し、アンケート結果を活用したカリキュラムの改善に取り組んでいる。</p> <p>志願者の獲得を図るため、一般選抜におけるインターネット出願や公式LINEからの告知により志願者の利便性の向上に取り組んでいるほか、県内外の高校訪問やオンラインも活用した出張講義、進学説明会、オープンキャンパスを実施している。</p> <p>大学の教育研究の質の向上（研究）に関して、研究成果を地域に還元するため、ホームページや学術リポジトリへの掲載、論纂の刊行、公開講座での積極的な情報発信に取り組んでいる。</p> <p>地域貢献に関して、各種地域連携活動として、青森まるっとよいどころ祭りの開催や青森市産官学連携プラットフォームでの合同研修・研究発表の開催等を実施している。</p> <p>業務運営の改善及び効率化に関して、大学運営の参考とするため審議会等の委員等から意見聴取を行ったほか、設立団体の青森市長と法人役員の意見交換を実施している。</p> <p>経営・財務内容の改善に関して、検定料収入や研究関連収入、その他の外部資金の積極的な獲得活動の実施に加え、内部統制規程に基づく各種監査の実施や教職員の法令遵守に対する意識向上に取り組んでいる。</p> <p>自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関して、中期計画の定期的な進捗管理を行うとともに、業務実績等に係る外部評価結果を活用したPDCAサイクルによる継続的な改善に取り組んでいる。</p> <p>その他業務運営に関して、インフラ長寿命化計画に基づく各種施設・設備の効果的な修繕等により、良好な学修・研究環境の整備に取り組んでいるほか、国際芸術センター青森の青森アートミュージアム5館連携への参画によるアートツーリズム誘客等のPR事業を実施し施設利用の促進に向けた取組を行っている。</p>
<p>※令和6年度業務実績報告書より記載</p>

3 組織、業務運営等に係る改善事項等

委員評価	業務実績評価書（案）
<p>○<u>大学院の学生募集について、志願者確保のための着実な取組は認められるものの入学定員に満たない状況が続いていることから、その着実な取組に期待する一方で、将来的な在り方も検討していく必要があると考える。</u></p> <p>○<u>大学院志望者については、今後の改善が必要と考える。</u></p>	<p>大学院については、志願者確保のための着実な取組は認められるものの、入学定員に満たない状況が続いていることから、その着実な取組に期待する一方で、今後、将来的なあり方も検討していく必要があると考える。</p>

委員意見を踏まえた令和6年度業務実績評価（案）

項目別評価

1 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置（教育）

委員評価	業務実績評価書（案）
<p>○成績チャートの提示、成績不振者への面談など、学修サポートが手厚くできている。</p> <p>○No. 3 <u>成績不振者に対する面談を充実させ、ドロップアウトの抑制に努めていることがわかり、親目線で見ても良い取り組みができていると思う。今後も充実を図ってほしい。</u></p> <p>○適切な授業運営及び成績評価の実施、学生の学修成果の可視化した成績チャートの学生本人への通知及び面談時での活用は、本学が目指す「経営経済の専門性をもった教養人の育成」に十二分に貢献しているものと判断できる。</p> <p>○<u>授業評価アンケートの設問に「科目の到達目標」の達成度合いを自己評価する項目を追加し、アンケートとしての精度を高めて実施した点、またオンラインによる採用活動に対応するため、支援体制の充実を図ることでミーティングボックスの利用件数が約2倍になった点は高く評価できる。</u></p> <p>○<u>授業評価アンケートを踏まえて授業改善に取り組むとともに、結果を図書館で公開していることは評価できる。</u></p> <p>○<u>授業評価アンケートの結果を授業の改善・教育指導に繋げる仕組みができていること、加えて、そのアンケートを工夫していることも評価できる。</u></p> <p>○No. 10 <u>フィールドスタディや、演習科目における課外活動を充実させており、座学に偏らず実際の経験に基づく学修機会を増やしているところも個人的に大変良いと感じる。引き続き学生に対し当該取り組みにより、社会に出る前に身につけるべき「自らもの考え行動する」という姿勢を伸ばしてほしい。</u></p> <p>○<u>入学志望者獲得のために、学長・入学者選抜専門監等をはじめとして学内あげて高校訪問するなど、その姿勢は高く評価できる。</u></p> <p>○<u>オンライン説明会の開催、ミーティングボックスの活用など、社会環境の変化に沿った対応は効果的であったものと思われる。</u></p> <p>○<u>高校訪問、進学説明会、オープンキャンパス、SNSの活用による継続的な学生募集活動に加え、ミニ講義動画作成や大学見学等の申込方法の改善などに新たに取り組む、高い志願倍率に繋がっている。</u></p> <p>○<u>大学院の学生募集について、志願者確保のための着実な取組は認められるものの入学定員に満たない状況が続いていることから、その着実な取組の一方で、将来的な在り方も検討していく必要があると考える。</u></p> <p>○<u>大学院の志望者が入学定員に満たない点は、今後の取り組みに期待したい。</u></p> <p>○<u>オンライン説明会の開催、ミーティングボックスの活用など、社会環境の変化に沿った対応は効果的であったものと思われる。（再掲）</u></p> <p>○<u>授業評価アンケートの設問に「科目の到達目標」の達成度合いを自己評価する項目を追加し、アンケートとしての精度を高めて実施した点、またオンラインによる採用活動に対応するため、支援体制の充実を図ることでミーティングボックスの利用件数が約2倍になった点は高く評価できる。（再掲）</u></p> <p>○<u>就職活動へのサポートについては、前年度に設置したミーティングボックスの効果的な活用に取り組むなどキャリアセンターの充実が図られており、特に県内就職に向けて様々に取り組み、高い就職率に繋がっている。</u></p> <p>○<u>就職率100%を達成していることは高く評価されてよい。</u></p> <p>○No. 46 <u>就職活動におけるキャリアセンターの利用を促進するための施策も良好な実績となっており大変良いと思う。学生が早いうちからキャリアセンターを有効に活用し、自己認識、業界理解、マインド向上につなげていき、学生が納得できる就職活動をしていけるように引き続き取り組みを強化してほしい。</u></p> <p>○<u>計画項目が非常に多岐にわたる中で、いずれの項目においても着実に取り組まれており十分な実績をあげている。総合的に判断し順調な進捗状況にあると評価する。</u></p>	<p>成績チャートの提示をし、成績不振者に対する面談を充実させ、中途退学の抑制に努めていることは、良い取組であり、学修サポートが手厚くできていると評価する。今後の更なる充実に期待する。</p> <p>⇒「Ⅱ全体評価 1 総評」へ記載</p> <p>授業評価アンケートの設問に「科目の到達目標」の達成度合いを自己評価する項目を追加し、アンケートとしての精度を高める工夫をしており、その結果を図書館で公開している点は高く評価できる。また、アンケートの結果を授業の改善・教育指導につなげる仕組みができていることも評価できる。</p> <p>フィールドスタディや、演習科目における課外活動を充実させており、座学に偏らず実際の経験に基づく学修機会を増やしているところは高く評価できる。引き続き学生に対する当該取組により、社会に出る前に身につけるべき「自らもの考え行動する」という姿勢を伸ばしていくことを期待する。</p> <p>入学志望者獲得のために、学長・入学者選抜専門監等をはじめとする学内あげての高校訪問、オンラインを活用した進学説明会、オープンキャンパス、SNSの活用による継続的な学生募集活動に加え、ミニ講義動画作成や大学見学の申込方法の改善等、社会環境の変化に沿った対応に新たに取り組む、高い志願倍率につなげている姿勢は、高く評価できる。</p> <p>⇒「Ⅱ全体評価 3 組織、業務運営等に係る改善事項等」へ記載</p> <p>なお、大学院の志望者が入学定員に満たない点は、今後の取組に期待する。</p> <p>就職活動へのサポートについては、社会環境の変化を踏まえ、オンラインによる採用活動に対応するため、支援体制の充実を図ることで前年度に設置したミーティングボックスの利用件数が約2倍となったことや、県内就職に向けて様々に取り組むなど、キャリアセンターの利用を促進するための施策も良好な実績となっており、その結果として就職率100%を達成していることは高く評価されてよい。</p> <p>学生が早いうちからキャリアセンターを有効に活用し、自己認識、業界理解、マインド向上につなげていき、学生が納得できる就職活動をしていけるように引き続き取組の強化に期待する。</p> <p>計画項目が非常に多岐にわたる中で、いずれの項目においても着実に取り組まれており十分な実績をあげていることから、総合的に判断し中期計画の達成に向けて順調な進捗状況にあると評価する。</p>

委員意見を踏まえた令和6年度業務実績評価（案）

2 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置（研究）

委員評価	業務実績評価書（案）
<p>○<u>過去5年間実績のなかった教員の研究成果に対する顕彰について一定の件数で実績をあげたことは研究活動の活性化に資するものと評価でき、今後とも研究成果の情報発信の充実等により大学の地位向上に貢献するよう期待する。</u></p> <p>○<u>大学の地位を高めたと認められる研究成果を顕彰する計画について、令和元年度以降、0件が続いていたところ、10件と増加した点、また地域住民を対象とする公開講座を目標5講座のところ、6講座実施し、受講者数も前年比151%の855名となった点は高く評価できる。</u></p> <p>○自己評価「A」の3項目（研究成果の顕彰、公開講座、教育研究活動の支援）はその結果内容から確かに顕著な実績をあげていると考える。地域の大学として対外的にもその存在価値や地位、認知度を高めることにつながると思われるため、<u>引き続き積極的な取り組みを期待する。</u></p>	<p>過去5年間実績のなかった教員の研究成果に対する顕彰について、一定の件数で実績をあげたことは、研究活動の活性化に資するものと高く評価でき、今後とも研究成果の情報発信の充実等により大学の地位向上に貢献するよう、引き続き積極的な取組を期待する。</p>
<p>○<u>公開講座、まちなかラボ等による研究成果の地域への還元を積極的に行い、公開講座数と受講者数の数値において高い実績をあげている。</u></p> <p>○大学の地位を高めたと認められる研究成果を顕彰する計画について、令和元年度以降、0件が続いていたところ、10件と増加した点、また地域住民を対象とする公開講座を目標5講座のところ、6講座実施し、受講者数も前年比151%の855名となった点は高く評価できる。（再掲）</p> <p>○年間計画を上回る公開講座を開催し、受講者も大幅に増加していることから、<u>教員の研究成果を地域に還元する</u>という役割を果たしているといえる。</p> <p>○自己評価「A」の3項目（研究成果の顕彰、<u>公開講座</u>、教育研究活動の支援）はその結果内容から確かに顕著な実績をあげていると考える。地域の大学として対外的にもその存在価値や地位、認知度を高めることにつながると思われるため、<u>引き続き積極的な取り組みを期待する。</u>（再掲）</p>	<p>地域住民を対象とする公開講座、まちなかラボ等による研究成果の地域への還元を積極的に行い、公開講座数と受講者数の数値において高い実績をあげていることは高く評価できる。教員の研究成果を地域に還元することは、地域の大学として対外的にもその存在価値や地位、認知度を高めることにつながるため、引き続き積極的な取組を期待する。</p>
<p>○<u>戦略的研究費の配分実績が増加し、教員の研究環境が充実しているものと推察される。</u></p> <p>○自己評価「A」の3項目（研究成果の顕彰、公開講座、<u>教育研究活動の支援</u>）はその結果内容から確かに顕著な実績をあげていると考える。地域の大学として対外的にもその存在価値や地位、認知度を高めることにつながると思われるため、<u>引き続き積極的な取り組みを期待する。</u>（再掲）</p>	<p>戦略的研究費の配分実績が増加し、教員の研究環境が充実しているものと推察される。今後についても、引き続き積極的な取組を期待する。</p>
<p>○<u>地域の抱える課題の解決に向けた研究を、自治体や関係団体と連携して行っており、地域の大学としての役割を適切に果たしている。</u></p>	<p>地域の抱える課題の解決に向けた研究を、自治体や関係団体と連携して行っており、地域の大学としての役割を適切に果たしている。</p>
<p>○<u>いずれの項目においても着実に取り組まれており、十分な実績をあげている。総合的に判断し順調な進捗状況にあると評価する。</u></p> <p>○<u>教員の研究実施体制等の整備が充実し、今後より一層研究水準が上昇することが期待できるとともに、地域課題解決のために貢献していくものと思われる。</u></p>	<p>いずれの項目においても着実に取り組まれており、十分な実績をあげていることから、総合的に判断し中期計画の達成に向けて順調な進捗状況にあると評価できる。教員の研究実施体制等の整備が充実し、今後より一層研究水準が上昇することが期待できるとともに、地域課題解決のために貢献していくことを期待する。</p>

委員意見を踏まえた令和6年度業務実績評価（案）

3 地域貢献に関する目標を達成するための措置

委員評価	業務実績評価書（案）
<p>○大学の教育研究資源や成果を「まちなかラボ」、「地域公開講座」などを通じて地域の方々に還元しており評価できる。</p> <p>○地域住民を対象とする公開講座を目標5講座のところ、6講座実施し、受講者数も前年比151%の855名となった点は高く評価できる。</p> <p>○新たな取り組みとして、二大学連携特別公開授業を実施し、これまでゼミ単位で行っていた交流事業を大学全体としての交流に拡充した点は高く評価できる。</p> <p>○青函圏域交流を推進することにより、さらに研究が充実するとともに、地域貢献の側面においても大きな成果が期待できる。</p> <p>○No. 68 他大学との連携を拡大できていることは大変素晴らしいと思う。学生同士の交流拡大による視野の広がりにつながり、また、一般市民の受講受け入れも地域貢献の観点で非常に有意義であると思う。引き続き事前の広報活動にも注力し、より受講者が増えることを期待している。</p> <p>○青森市をはじめとする自治体や産業振興団体等との連携事業に積極的に取り組んでおり、地域の大学として地域産業の活性化と地域人材の輩出に貢献している。</p> <p>○各自治体や団体との連携による研究活動は、学生に対する教育面はもとより、これまで以上に地域貢献活動が充実していくものと期待できる。</p> <p>○No. 71 起業・創業に向けた支援も大変良い取り組みであると思う。すぐに起業・創業につながるケースは多くはないと思うが、仮に実現しない場合であっても、スタートアップに係る様々なことを勉強、吸収できる貴重な機会を提供できる点が良い。学生の自由で柔軟な発想力を鍛えるためにも有効であり、さらに取り組みを強化して行ってほしい。</p> <p>○いずれの項目においても着実に取り組まれており、十分な実績をあげている。総合的に判断し順調な進捗状況にあると評価する。</p> <p>○青森公立大学開学の理念に基づいた地域貢献的な事業の実施に努力が認められる。評価点数5に近い。</p> <p>○本学が中心となって、より一層地域連携、広域連携への取組を強化し、この地域における研究活動をリードして頂きたい。</p>	<p>大学の教育研究資源や成果を「まちなかラボ」、「地域公開講座」などを通じて地域の方々に還元しており、「地域公開講座」においては、目標回数を超える講座数を実施し、受講者数も前年比約151%となっている点は高く評価できる。</p> <p>青函圏域交流の新たな取組として、二大学連携特別公開授業を実施し、これまでゼミ単位で行っていた交流事業を大学全体としての交流に拡充した点は高く評価できる。この取組の推進により、さらに研究が充実するとともに、学生同士の交流拡大による視野の広がりにつながるほか、一般市民の受講受け入れも、地域貢献の側面において大きな成果が期待できることから、引き続き事前の広報活動にも注力し、より受講者が増えることを期待する。</p> <p>青森市をはじめとする自治体や産業振興団体等との連携事業に積極的に取り組んでおり、地域の大学として地域産業の活性化と地域人材の輩出に貢献していることは、学生に対する教育面はもとより、これまで以上に地域貢献活動が充実していくものと期待できる。</p> <p>起業・創業に向けた支援は大変良い取組であると評価できる。すぐに起業・創業につながるケースは多くはなくても、スタートアップに係る様々なことを勉強、吸収できる貴重な機会を提供できる点が高く、学生の自由で柔軟な発想力を鍛えるためにも有効であり、更なる取組の強化に期待する。</p> <p>いずれの項目においても着実に取り組まれており、十分な実績をあげている。大学開学の理念に基づいた地域貢献に関する事業の実施に努力が認められ、総合的に判断し中期計画の達成に向けて順調な進捗状況にあると評価でき、最高評価にも近い実績であるとも評価できる。今後、青森公立大学が中心となって、より一層地域連携・広域連携への取組を強化し、この地域における研究活動をリードしていただきたい。</p>

委員意見を踏まえた令和6年度業務実績評価（案）

4 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置

委員評価	業務実績評価書（案）
<p>○No. 86 大学運営の大前提である教員数確保をクリアできている点を評価する。加えて、No. 90 教員職員対象の人事評価実施についても教員職員の質の維持、向上を目的とし、実施に向けての準備を着実に進めていることを高く評価する。令和7年度の実施に向けて万全の準備をして臨んでもらいたい。</p> <p>○教員を対象とした人事評価について、計画では本格導入のための検証を行うとしていたものに対して、実績では本格実施に向けて諸環境を整備して令和7年度からの本格実施を決定した進捗は評価できる。</p> <p>○事務職員を対象とする能力評価及び業績評価の継続実施や、教員職員を対象とする人事評価（自己評価・評価実施）の試行等、年度計画を着実に達成していると認められ、評価できる。</p> <p>○人事評価の本格実施に漕ぎつけたことは評価できる。今後の実施状況を見守りたい。</p> <p>○戦略会議の開催、市長と法人役員との意見交換などの運営体制の改善のための手段が確立され実行されている。今後とも有意義なものとして実行されるよう期待する。</p> <p>○いずれの項目においても着実に取り組まれており、十分な実績をあげている。総合的に判断し順調な進捗状況にあると評価する。</p>	<p>大学運営の大前提である教員数確保をクリアできている点を評価する。加えて、事務職員を対象とする能力評価及び業績評価の継続実施や、教員職員を対象とする人事評価（自己評価・評価実施）の試行等、年度計画を着実に達成していると認められ、評価できる。令和7年度からの教員職員を対象とする人事評価の本格実施に向けては、万全の準備とともに、今後の実施状況に期待する。</p> <p>戦略会議の開催、市長と法人役員との意見交換などの運営体制の改善のための手段が確立・実行されている。今後とも有意義なものとして実行されるよう期待する。</p> <p>いずれの項目においても着実に取り組まれており、十分な実績をあげていることから、総合的に判断し中期計画の達成に向けて順調な進捗状況にあると評価する。</p>

5 経営・財務内容の改善に関する目標を達成するための措置

委員評価	委員評価業務実績評価書（案）
<p>○外部研究費の申請が直近2年間の平均値を上回ったことは評価できる。</p> <p>○外部資金の獲得に関する計画は着実に達成されており、特に科学研究費補助金等の申請については、科学研究費補助金8件、公益財団法人青森学術文化振興財団助成事業6件の合計14件申請した点は高く評価できる。</p> <p>○外部研究費の申請が数値目標を上回ったことは評価でき、今後とも適切な支援のもと、継続的に実績をあげていくよう期待する。</p> <p>○物価高騰や人件費が増加等により資金の減少局面が続いているものの、厳しい環境下でのやり繰りに努めていると評価できる。</p> <p>○No. 99～104 トップラインの増強および経費抑制に向けた取り組みを実行しており、一定の成果をあげているところを評価したい。</p> <p>○No. 108～109 内部統制強化においても自己評価、監査、コンプライアンス研修を通じた一定の取り組みが見られている。ただし、この項目は大学運営を持続的に行っていくためにも極めて重要な項目である。大学内で各種ハラスメントや資金面での不祥事等が発生すると、周囲に与える影響が大きく入学希望者の減少にもつながりかねないため、引き続き油断せずに取り組みを強化、継続して行ってほしい。</p> <p>○いずれの項目においても着実に取り組まれており、十分な実績をあげている。総合的に判断し順調な進捗状況にあると評価する。</p>	<p>外部研究費の申請が数値目標を上回ったことは高く評価でき、今後とも適切な支援のもと、継続的に実績をあげていくよう期待する。</p> <p>物価高騰や人件費が増加等により資金の減少局面が続いているものの、外部資金獲得の推進や経費抑制に向けた取組を実行しており、厳しい環境下でのやり繰りに努め、一定の成果をあげていると評価できる。</p> <p>内部統制強化においても自己評価、監査、コンプライアンス研修を通じた一定の取組が見られている。これらは、大学運営を持続的に行っていくためにも極めて重要な項目であることから、引き続き油断せずに取り組を強化・継続するよう期待する。</p> <p>いずれの項目においても着実に取り組まれており、十分な実績をあげていることから、総合的に判断し中期計画の達成に向けて順調な進捗状況にあると評価する。</p>

委員意見を踏まえた令和6年度業務実績評価（案）

6 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標を達成するための措置

委員評価	業務実績評価書（案）
<p>○中期計画及び年度計画の進捗管理を定期的に行い、その結果を共有している点や、令和7年度の大学機関別認証評価の受審の準備等、年度計画を着実に達成していると認められ、評価できる。</p> <p>○評価委員会の評価結果及び組織、業務運営等に係る改善事項等への反映状況が、学内外で情報が共有されていることは評価できる。</p> <p>○中期計画及び年度計画の進捗管理、点検・評価、改善のサイクルが適切かつ確実に実施されているものと評価できる。</p> <p>○いずれの項目においても着実にかつ適切に取り組まれている。総合的に判断し順調な進捗状況にあると評価する。</p>	<p>中期計画及び年度計画の進捗管理を定期的に行い、その結果を共有している点や、評価委員会の評価結果及び組織、業務運営等に係る改善事項等への反映状況が、学内外で情報が共有されており、中期計画及び年度計画の進捗管理、点検・評価、改善のサイクルが適切かつ確実に実施されているものと評価できる。</p> <p>いずれの項目においても着実にかつ適切に取り組まれていることから、総合的に判断し中期計画の達成に向けて順調な進捗状況にあると評価する。</p>

7 その他業務運営に関する重要目標を達成するための措置

委員評価	業務実績評価書（案）
<p>○教育研究用施設・設備について、効率的な予算執行の下で整備・更新が計画的に行われている。</p> <p>○No. 117 施設・設備についての定期的な点検や診断を実施し、しっかりと整備している。インフラ長寿命化計画に基づき、設備の修繕、維持工事を適切に実施している点を評価したい。</p> <p>○学内の施設、設備等の整備が計画的に実施され、教職員及び学生に対して良好な学習環境が提供できているものと思われる。</p> <p>○大学施設・設備の外部貸し出しに積極的に取り組み、自己収入の確保につなげるとともに、地域の貴重な財産の有効活用にもつなげている。</p> <p>○国際芸術センターの活用について、小中学生を対象とした校外学習プログラムの実施などにより、促進が図られている。</p> <p>○青森アートミュージアム5館連携協議会へ参画し、共同WEBサイト運営、アートツーリズム誘客等のPR事業、及び「AOMORIGOKAN アートフェス 2024」を実施し、国際芸術センター青森への来場者促進を図った点は評価できる。</p> <p>○ハラスメント防止の取組やハラスメントに係る相談窓口を明記した「ハラスメントに関する手引き」の配付、ポータルサイト等への掲載及びハラスメント相談窓口や相談員の連絡先の学内掲示を行い、人権意識の向上を図った点は評価できる。</p> <p>○すべての公立大学に対し、ハラスメント防止体制に関わるアンケート調査を実施するなど、人権意識の向上を図る取組は、高く評価できる。</p> <p>○いずれの項目においても着実に取り組まれており、十分な実績をあげている。総合的に判断し順調な進捗状況にあると評価する。</p>	<p>教育研究用施設及び設備の修繕・維持工事について、インフラ長寿命化計画に基づき、効率的な予算執行の下で計画的に実施され、教職員及び学生に対して良好な学修環境を提供する取組を実施している点は評価できる。</p> <p>大学施設・設備の外部貸出に積極的に取り組み、自己収入の確保につなげるとともに、地域の貴重な財産の有効活用にもつなげている。</p> <p>国際芸術センターの活用について、小中学生を対象とした校外学習プログラムの実施などにより、促進が図られている。</p> <p>青森アートミュージアム5館連携協議会へ参画し、共同WEBサイト運営、アートツーリズム誘客等のPR事業、及び「AOMORIGOKAN アートフェス 2024」を実施し、国際芸術センター青森への来場者促進を図った点は評価できる。</p> <p>「ハラスメントに関する手引き」の配付、ポータルサイト等への掲載及びハラスメント相談窓口・相談員の連絡先の学内掲示を行ったこと、また、全ての公立大学に対し、ハラスメント防止体制に関わるアンケート調査を実施するなど、人権意識の向上を図る取組を実施した点は高く評価できる。</p> <p>いずれの項目においても着実に取り組まれており、十分な実績をあげている。総合的に判断し中期計画の達成に向けて順調な進捗状況にあると評価する。</p>